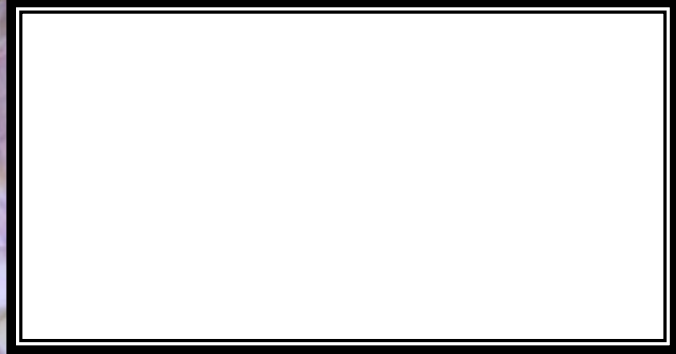


宛先



# ニューズレター

低平地研究会 (LORA), 国際低平地研究協会 (IALT)

<http://www.ilt.saga-u.ac.jp/lora/index.html>

<http://www.ilt.saga-u.ac.jp/ialt/index.html>

No. 73

平成25(2013)年 6月14日

## 低平地研究会運営委員会・活動報告会の開催



平成25年4月18日(木)・午前10時30分から、佐賀大学本庄キャンパスの多目的セミナー室において、同年度の運営委員会が開催されました。活動報告、活動計画、決算および予算、運営委員の交代、低平地研究会発足20周年記念行事開催の議題などが検討されました。

永年にわたり研究会の運営にご尽力いただいた権藤幸彦会長ならびに三浦哲彦顧問が勇退され、新会長に緒方耕治氏(前(公財)佐賀県建設技術支援機構・理事長)が就任されました。他方、平成3年11月1日に発足した低平地研究会は、本年で20年を迎えることとなります。20周年記念行事の実施が決定されました。

13時からは同会場で活動報告会が行われ、特別講演会や平成24年度の部会活動が報告されました。参加者は58名でした。

会長が交代されたこともあり、新たな体制で活動を行っていきます。今後とも皆様のご協力ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



権藤幸彦前会長



緒方耕治新会長

## 平成24年度低平地研究会特別講演会

本年度の特別講演会では東北工業大学工学部の今西肇教授をお招きし、「東日本大震災から2年、復旧と復興の現実とこれから」という題目にてご講演いただきました。



今西肇教授

先の震災では、近年発生した地震とは異なり、津波災害、さらには放射性物質の拡散などのことが起きたため、多量の土壌の混在する災害廃棄物が発生しました。膨大な量かつ処理が困難な同廃棄物に関する現状や、技術試験、今後の課題について解説していただきました。また、これからの復旧復興では、地震や津波は自然現象のため、そのリスクを受任しつつ自然と共生する、住民の自立性の向上といった理念に基づき「減災」を確かなものにする事の重要性が述べられました。

## 経済専門部会活動報告

5月11日(土)、久留米大学福岡サテライト教室(福岡市大丸エルガーラ5階)において「筑後川の自然とは何か」と題して、「筑後川と鰻」、「筑後川の自然の恵みを見直す流域再開発を」、「筑後川の歴史と社会」の各話題を望岡典隆准教授(九州大学)、清野聡子准教授(九州大学)、大矢野栄次専門部会長(久留米大学・教授)にご提供いただき、勉強会を開催しました。福岡市や久留米市の他に、日田市や大川市からの参加者もあり、予定時間を越えて議論が交わされました。当活動でいただいた要望を取り入れ、今後もこの様な勉強会を開催することが確認されました。



Shared Space

(シェアード・スペース、共有空間)

佐賀と同様の低平地を持つオランダの Hans Mondeman が、「Shared Space」という奇抜な考え方を提唱しました。これは、「道路上の信号や標識類をなるべく撤去したうえで空間デザインに配慮し、最低限の交通ルールと人々のコミュニケーションによって歩車共存の空間に再構築する」というものです。従来とは全く逆の考え方で、様々な道路ユーザーが混在することでドライバーは安心して走行できなくなり、速度を落とさざるを得なくなるので、結果的に安全になるという考え方です。



この概念を取り入れたオランダのハーレンでは事故件数が39件から19件に減少したことが報告されており、Shared Space 外では自動車の平均速度が40km/hであるのに対して、Shared Space 内では27km/hで走行しており、確かな減速効果が確認されています。さらに、速度の抑制や事故率の低下等の交通安全性の向上に加え、オープンカフェやイベントが行われるなど、魅力的空間の創出などの事例もあります。(佐賀大学大学院工学系研究科都市工学専攻・教授 清田勝)

低平地研究会活動内容・日程の案内

◆ 第1回 低平地月例勉強会 ◆

日時：平成25年7月25日(木)15:00~16:30  
 場所：佐賀県自治会館4階大会議室  
 議題：旧堤防(二線堤)の活用調査結果について  
 議題提供：佐賀県農山漁村課 橋爪康行 技術監

◆ 地盤専門部会 部会活動 ◆

日時：平成25年7月26日(金)13:30~17:00  
 場所：佐賀大学理工学部6号館2階多目的セミナー室  
 議題：第4回「佐賀地域の地質」技術研修会

◆ 経済専門部会 バスツアー ◆

日時：平成25年8月4日(日)  
 順路：久留米市内ならびに小郡市内

◆ 第2回 低平地月例勉強会 ◆

日時：平成25年8月29日(金)15:00~16:30  
 場所：佐賀大学菱の実会館多目的室

会員 特別会員

動向 株式会社有明エンジニアリング

佐賀県では、南部の有明海岸沿に日本有数の軟弱地盤地帯を抱えています。同県政下で整備進行中の高規格道路『有明海沿岸道路』などは、この軟弱地帯を通るため、地盤沈下、変位対策や基礎工法が重要視されています。弊社では、測量から補償、地質調査、設計コンサルタントの機能を有した、地元の総合建設コンサルタントとして、多様な人材の技術力を生かし、時代に応じた技術をもってこれらに携わり、佐賀県の発展に貢献していきたいと考えています。



ITI ジャーナル Vol. 15、No. 1 の発行

英文機関誌「Lowland Technology International」Vol.15、No.1 が発行されます。下記の7編が掲載されており、ウェブサイトでも閲覧可能です(会員限定)。

Title	Authors
Technical Papers	
GEOLICER AND ITS APPLICATION FOR SOIL STRATA ANALYSIS	T. Hino, R. Jia, T. Harianto, K. Ohgushi and T. Ichihara
PREDICTION OF SOIL WATER CHARACTERISTIC CURVE USING PHYSICALLY BASED SCALING TECHNIQUE	S. Y. Liu, N. Yasufuku, Q. Liu and J. Yu
LONG-TERM CHANGE OF WATER QUALITY IN THE RESERVOIR OF THE ISAHAYA BAY RECLAMATION PROJECT	Y. Mitsugi, N. Vongthanasunthorn, Y. Mishima, K. Koga, H. Araki and P. Ittisukananth
ACCOUNTING FOR RISKS OF USING SHALLOW GROUND WATER FOR SECONDARY CROPS ON LOWLAND PADDY FIELDS IN INDONESIA	D. Useng
PREFERENCES AND CONSTRAINTS REGARDING MOVING TO A FINAL RESIDENCE: A CASE STUDY IN HITACHI CITY, JAPAN	M. Kinashi
INVESTIGATING THE LOW- INCOME SETTLEMENT IN AN URBANIZATION AND URBAN FORM A CONSEQUENCES OF BANGKOK GROWING CITY, THAILAND	U. Shummadtayar, K. Hokao and P. Iamtrakul
ECOLOGY, PRODUCTION AND LIVING: RESEARCH ON THE PLANNING AND CONSTRUCTION OF RURAL FEATURES BASED ON THE EPL SYSTEM	C. C. Xu, Z. Y. Chai and Y. C. Gao

編集後記

季節感を出すために前号から写真の掲載を試みていますが、花粉症のため桜の写真が入手できませんでした。本号では紫陽花を掲載できましたので、季節感の責は塞げたと思います。(三島)

編集担当：三島、日野 (佐大：mishima@ilt.saga-u.ac.jp)